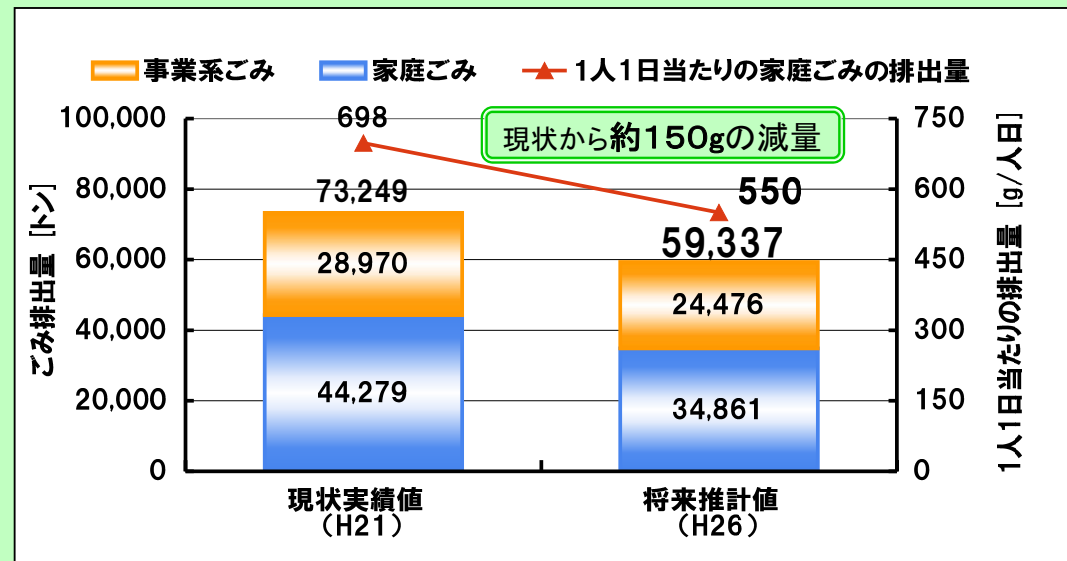


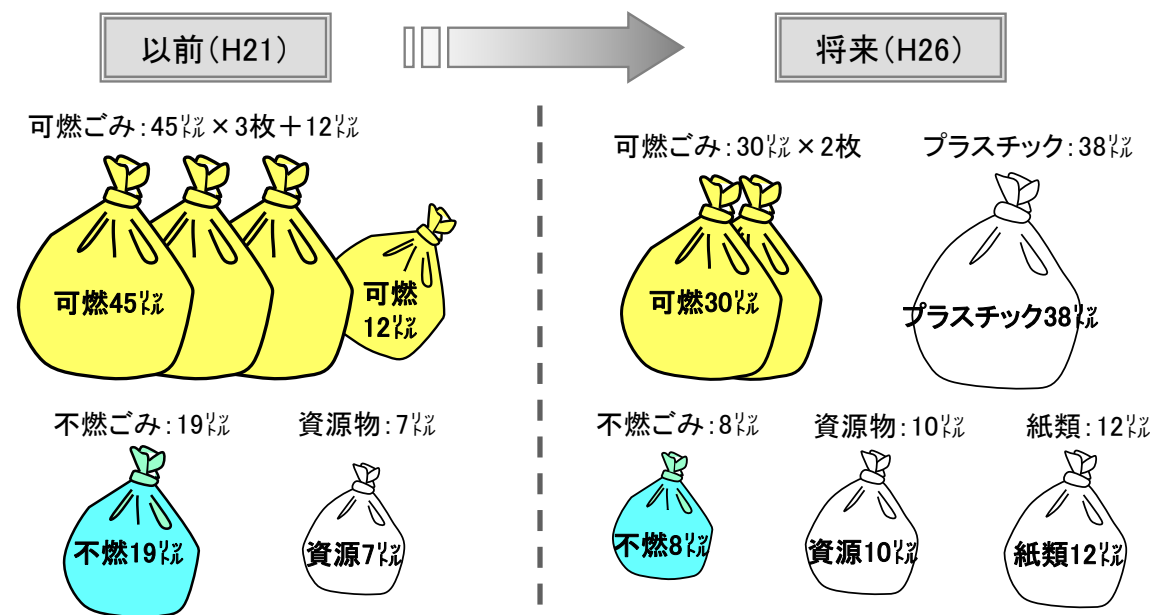
施策実施の効果

- 1人1日当たりの家庭ごみ排出量の数値目標550gを達成できる。
- ごみ減量目標が達成できた場合には、糸井清掃センターの焼炉を見据えた検討が可能になる。
- リサイクル率は数値目標の28%に向上する。



ごみ排出量はこんなふうに変ります。

(試算条件: 4人家族が1週間で排出するごみ量)



～ 053(ゼロごみ)のまち とまこまい ～

ごみ減量とリサイクル推進に向けて

私たちは、ごみの適正処理と資源循環型社会を実現することにより、
 苫小牧の豊かな自然に恵まれた良好な環境を未来に引き継いでいくため、
『自然と環境にやさしいまち』を目指しています。

ゼロごみ 053のまち 基本目標と数値目標

ごみを適正かつ衛生的に処理するだけでなく、資源循環型社会への対応を見据え、施設の整備に努めるとともに、収集・運搬の効率化を図ります。

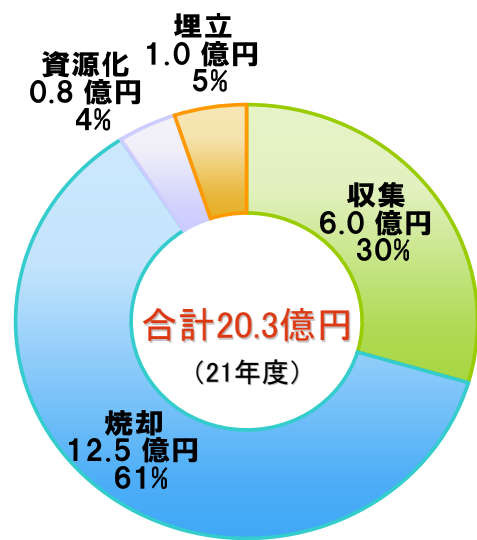
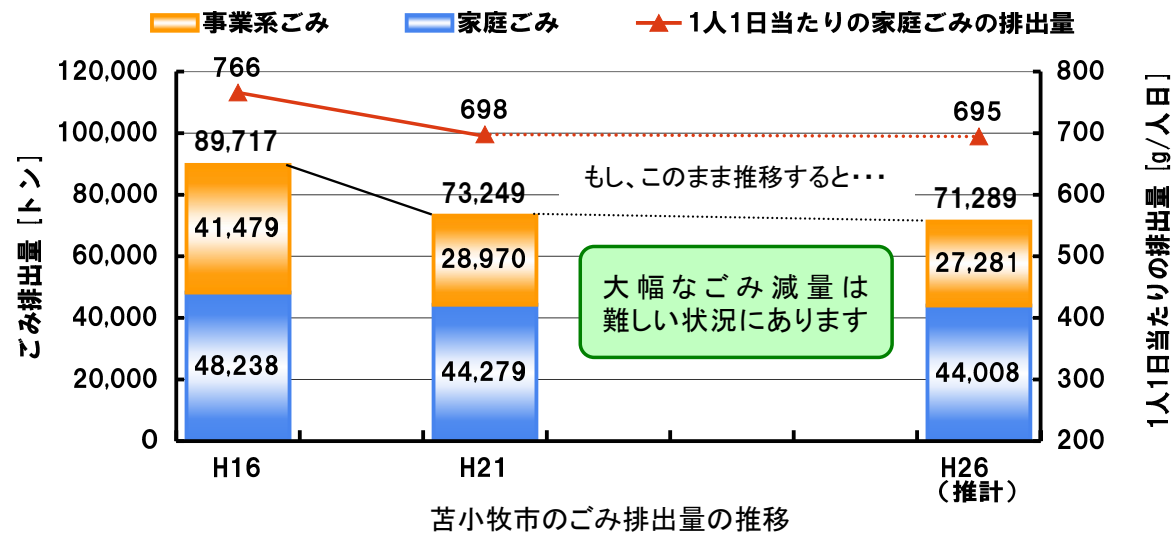
	現状 (21年度)	目標 (26年度)
1人1日当たりの家庭ごみ排出量	698グラム	550グラム
リサイクル率	17.3%	28.0%

資源循環型社会を実現した『自然と環境にやさしいまち』となるためには… 私たち一人ひとりが、次のような行動を実践することが必要になります。

- 3Rを積極的に推進し、ごみの減量に努める。
 - 簡易包装や詰替商品を積極的に購入する。
 - マイバッグを持参し、レジ袋の使用を控える。 …など
- 資源物の分別を徹底し、リサイクルの推進に努める。
 - びん・缶・ペットボトル・紙パック・プラスチックは資源として排出する。
 - 古着・廃食油は拠点回収を利用する。
 - 新聞・雑誌・段ボールは集団回収を利用する。
- ごみの排出マナーを守り、ごみステーションの衛生管理に努める。
- 地域清掃ボランティアなどに積極的に参加する …など

現状と課題

- **ごみ排出量・リサイクル率ともに北海道平均に満たない。**
 1人1日家庭ごみ排出量 : 本市_698g (全道_644g)
 リサイクル率 : 本市_17.3% (全道_20.4%)
- **安定したごみ処理のために、老朽化施設の整備が必要である。**
 焼却施設は全国的には25年程度で廃炉となっているが、糸井清掃センターはS57の供用開始以来、すでに29年間稼働している。



本市のごみ処理原価の内訳を見ると、ごみを焼却するための費用が最も多く、全体の61%を占めている。

資源化に要する費用は全体の4%に過ぎないが、リサイクル率の向上や分別品目の拡大により、増加傾向にある。

家庭ごみ有料化計画の概要

家庭ごみ有料化とは、家庭から排出される廃棄物について、それを適正に処理するための費用の一部を、市民が手数料という形で、直接負担する仕組みのことです。

本市では、大幅なごみ減量を達成するための手段の一つとして、家庭ごみ有料化の平成25年7月実施を目指します。

目的	● 大幅なごみ減量の達成
実施	● 平成25年7月(予定)
対象	● 有料 - 燃やせるごみ、燃やせないごみ ● 無料 - 資源物(ビン・缶・ペットボトル・紙パック)、プラスチック、紙(25年度より)
手数料	● ごみ容量1リットル当たり2円
袋種類	● 共有袋 (=「燃やせるごみ」と「燃やせないごみ」兼用) ● 5区分
大こみ	● 1点につき500円を 300円又は600円の段階設定へ改定
減免等	● ボランティア清掃によるごみ ● 罹災ごみ ● 乳幼児・重度障害者(児)・高齢者世帯の紙おむつ
周知	● 053大作戦ステージ3 の実施 (24年度)
美化推進	● 不法投棄対策 ⇒ 夜間・休日パトロールの実施 ⇒ 不法投棄110番の設置 ● 不適正排出対策 ⇒ (仮称)ステーションパトロール隊の創設 ⇒ (仮称)共同住宅排出マナー改善対策協議会の創設 ● カラス対策 ⇒ 折りたたみ式ごみステーションの設置